

# ブラジル中銀は景気・物価の基調判断を維持

- ブラジル中銀は3会合連続で政策金利を6.50%で据え置き。5月の輸送ストライキは政策判断にほとんど影響せず。
- ブラジル中銀はストライキに伴う物価上昇や景気減速は一時的との見方を崩さず、景気・物価の基調判断は維持。
- 先行きの金融政策に関してブラジル中銀は中立的な方針を示す。市場では年内の政策金利据え置きの見方が大勢。
- 今後は10月の大統領選挙に向けた選挙戦が本格化するため、選挙を巡る政局の変化に市場の注目集まる。

## ブラジル中銀は3会合連続で政策金利を据え置き

ブラジル中央銀行は7月31日-8月1日の金融政策委員会(COPOM)において、3会合連続で政策金利を6.50%に据え置く決定を下しました(図1)。

## ブラジル中銀の景気・物価の基調判断を維持

2018年5月に発生したトラック運転手による大規模ストライキは5-6月の経済統計に大きな影響を及ぼしました。物流網が一時的に麻痺したことで、6月の拡大消費者物価指数(IPCA)は前年比+4.4%へ急上昇(5月は前年比+2.9%)したほか、5月の鉱工業生産は前月比-10.9%とリーマンショック後の2008年12月(前月比-11.2%)以来の大幅な落ち込みとなりました(図2)。

もっとも、ブラジル中銀は輸送業界のストライキに伴う物価上昇や景気減速は「一時的」との見方を崩していません。今回示されたブラジル中銀のインフレ見通しでは、2018年末のインフレ率は前年比+4.2%、2019年末は前年比+3.8%と予想されており、「基調的な物価上昇圧力は依然として低い」というのがブラジル中銀の判断です。

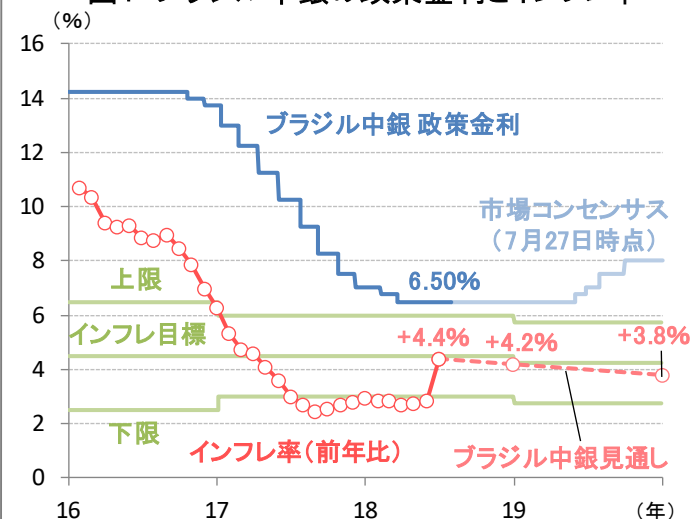
ブラジル中銀の景気見通しに関しても、回復ペースはストライキ前の予想より緩やかになるとみられるものの、景気回復シナリオは引き続き維持されている模様です。

## ブラジル中銀は中立的な金融政策方針を示す

また、ブラジル中銀は先行きの金融政策に関して、「今後の経済活動やリスク要因のバランス、インフレ見通しの行方次第である」という点を強調し、中立的な政策方針を示しました。直近の市場コンセンサスでは、ブラジル中銀の政策金利は年内は6.50%で据え置かれ、2019年5月以降、緩やかな利上げに転じると予想されています。

特に今後は10月のブラジル大統領選挙に向けた選挙戦が本格化することから、経済動向よりも選挙を巡る政局の変化に市場の注目が集まりそうです。

図1:ブラジル中銀の政策金利とインフレ率



(出所)ブラジル中銀、ブラジル地理統計院(IBGE)  
 (期間)政策金利:2016年1月1日～2018年8月1日  
 拡大消費者物価指数(IPCA):2016年1月～2018年6月  
 (注)ブラジル中銀のインフレ見通し(市場シナリオ)は、政策金利と為替レートの予想前提に市場コンセンサスを使用したもの。

図2:ブラジルの鉱工業生産の推移



(出所)IBGE (期間)2008年1月～2018年5月

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。●当資料に記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。